

2023年度 学校法人 三幸学園 広島ビューティー＆ブライダル専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 石橋亜希子

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる(皆をハッピーにする)人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

◇前年度重点施策振り返り

〈重点施策〉

- * 技術力を有する専門職に就く為に必要な資格取得とサービス業に従事する心構えを教育する
 - ・出席することの重要性や資格の必要性・資格取得のメリットをしっかりと伝え、生徒に動機づけする。
 - ・新たな教育コンテンツを有効に活用し、効果測定をしながら、教育の質の向上に努める。
 - ・地域連携や産学連携により実践力や対応力を強化する。
 - ・定期的な教科会を年2回以上必須で実施し、手合わせや検定合格に向けての具体策を考え実施する。
- * 退学率を下げる為の改善や施策が必要
 - ・HRなどで出席することの重要性を伝えることと、授業や行事でより良い人間関係を創れる環境を整える。
 - ・卒業生の活躍や業界の魅力を伝える機会を増やし、生徒が前向きに取り組める環境や不安や悩みを相談できる環境を整える。
- * 同窓会組織の活性化・認知活動による卒業生支援
 - ・卒業生の活躍を把握し、同窓会活動に積極的に参加できる環境を創る。
 - ・卒業生の現状把握や独立支援・卒業後フォローアップの為 Sanko Link や LINE を活用する。

〈振り返り〉

- * 検定合格率の低下
 - 授業や行事において魅力付けや検定に対する動機付けができていなかった。まずは授業の環境設定やその検定受験に向けての動機付けを実施する。
- * 退学率の増加
 - ・通信制からの入学生や多様性の学生に対する配慮と授業方法を検討する。
 - ・魅力的な授業づくりをすることの重要性を教員に伝え、学生が抱える不安や悩みを早期に解決できるように、学生の変化に気づき教員間で共有し、対策を講じる。

* 卒業生支援

卒業生対象に、アプリ(Sanko Link)の登録を促し、いつでも連絡がとれるような状態にしている。

卒業生からの情報を待つだけでなく、訪問を通し活躍する卒業生と直接対話することで情報を収集し、支援できる取り組みがないかを学校として検討していく。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

①課題

- ・学校教育や指導方針についての積極的な理解を得る必要性がある。保護者会に出席できた方とそうでない方に認識の差が出ている

②今後の改善方策

- ・各学科やコースによって業界の取り巻く環境が違う為、各学科に分けた保護者説明会が必要である。
しかし、保護者説明会日程や遠方による出席が叶わない保護者の為に、オンデマンドにて実施をおこなえるよう整える。

③特記事項

特になし

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

①課題

- ・今後のキャリアイメージやキャリアアップの機会を創設すべく、整備された新たな人事制度の運用を実施する
- ・コンプライアンスに対する周知する機会を増やす
- ・運営スタッフと教科担当教員による情報共有の場を随時設定する

②今後の改善方策

- ・新たな人事制度を浸透させる。
- ・誰もが受講できるようなコンプライアンス研修を準備する
- ・各学科の関わる教員が随時情報を収集できるように teams などを使用する

③特記事項

特になし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

①課題

- ・育成する人材像(ディプロマポリシー)をもとに各教科がディプロマポリシーのどの部分の達成を担うのかカリキュラムマップを作成しているが周知がまだ出来ていない。
- ・学科等のカリキュラムが体系的に編成されていることを教科担当や生徒に理解してもらう必要がある。
- ・まだまだ、職業教育(実技・実習等)や実践教育(サロンワーク)が出来ない。就職後にすぐに実践ができる接遇や対応力の向上・人との関わりのなかで成長ができる機会の創設が必要。
- ・昨年に引き続きメディア授業の内容を精査し、更に良い教育コンテンツを整備する必要がある。

②今後の改善方策

- ・企業訪問、卒業生訪問、インターンシップ・現場実習など、教職員および生徒が現場の方と接点を持ち、随時職業教育や実践教育が出来るようご依頼をする。
- ・現状の美容業界に必要な知識と技術を生徒が主体的に繰り返し学べるツールとして今年作成したデジタル教科書をしっかりと運用し教育の効果測定をする。更に、VRを導入し個別最適化した技術の習熟を図る。また、VR使用に当たって、教職員が使用方法を習得する研修を実施する。
- ・オンデマンドコンテンツを作成し、学生の特性に合わせて学びの選択ができるようにする。

③特記事項
特になし

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

①課題

- ・欠席や退学に対しハードルが低くなり、また決断が早くなっている中、出席する価値や資格取得の必要性について改めて動機付けが重要である。
- ・美容業界のニーズや動向をいち早く知り、生徒の就職に対するスタンスを理解した上で、適切な就職活動を斡旋する必要がある。
- ・学校側が積極的に卒業後の学生の社会的な活躍や課題を知る必要がある

②今後の改善方策

- ・引き続き、卒業生の活躍を間近で感じる環境(卒業生講話や実技披露)を創り、生徒自身のモチベーションや意欲を促す。
- ・検定合格に向けて教員間で手合わせや連携し補講等の取り組みを実施する。
- ・卒業生の活躍する現場や企業へ訪問し、求める人材像を生徒へ情報発信する。
- ・同窓会組織を運営する同窓会委員選出に向けて、準備をすすめる

③特記事項

特になし

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

①課題

- ・学生個々の不安や悩みを適宜相談できる体制を整える必要がある。
- ・保護者支援に関しては、入学前の保護者説明に積極的に参加いただき、更なる学校教育のご理解とご協力を促す必要がある。
- ・卒業生の人数も増え、卒業後のニーズに合わせた支援を検討する必要がある。

②今後の改善方策

- ・スクールカウンセラーを設置しており周知や案内が出来ていない。今後ポスターを掲示するなどして、要望する生徒が気軽に使用できる環境を整える。また、学生が相談のし易い教員に適宜相談できる環境としてチーム担任制を取り入れる
- ・保護者説明会オンデマンドで実施し、よりたくさんの保護者の方に本校教育にご理解とご協力をいただける環境を作る。
- ・今後卒業生にあった支援や要望を聞ける環境を創るため、創立15周年同窓会を2025年に実施できるよう準備と情報を発信していく。

③特記事項

特になし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

①課題

- ・昨年度取り入れた VR においては、個別最適化できる授業補助ツールとして役割を担っている。ただし、動機付けや使用方法について検証をする必要性がある。
- ・近年生徒の過呼吸や様々な持病を抱えて入学するケースがあり、教職員の安全管理に関する知識や研修実施が必要である

②今後の改善方策

- ・ネイル検定対策の VR コンテンツを作成し10月より使用できるように準備する。使用した学生からのアンケートを実施し、更なる改善を進める。
- ・AED の正しい使用の仕方の研修や性的マイノリティも視野にいれた研修を実施する

③特記事項

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

①課題

メイクの仕事が多様化され、学科やコースによって取得できる資格や受講できる授業が違っている。生徒募集の際に得られる知識や技術の差別化や詳細な告知が必要である。

②今後の改善方策

- ・生徒募集のパンフレットやオープンキャンパス等で詳細な説明を実施する
- ・SNSを使用してリアルな授業の様子を掲載していく。

③特記事項

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

①課題

【中長期計画】

特になし

【予算・収支計画】

特になし

【会計監査】

特になし

【財務情報の公開】

特になし

②今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

特になし

③特記事項

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

①課題

・学生がより SNS に親しみ使用している環境の中で、改めて個人情報の取り扱いに関する危機が薄れている。

②今後の改善方策

・HR などを使用して危機管理ができるよう指導する必要がある。

③特記事項

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

①課題

- ・コロナ禍が落ち着き、積極的に外部への地域貢献やボランティア活動の参画を計画し生徒の成長機会を準備する必要がある。
- ・教育訓練給付金制度の指定を受けているが受講者に必要とされる周知が出来ていない可能性がある。

②今後の改善方策

- ・昨年度、サロンワークにおいて、地域の方に学校教育や生徒の技術に触れてもらえる機会を作り、好評いただいた。今年度は更に社会貢献や地域貢献につなげると同時に学生の学びの場を設ける。
- ・地域貢献の一つとして高校との連携を深め、専門学校での学びの理解の場を設ける。
- ・教育訓練給付金制度の指定を受けたため、引き続き実施に向けて周知をおこなう。

③特記事項

特になし

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	2

①課題

- ・現状、分野特性として国際交流を進めるという観点を持っていない。
ただし、外国人観光客の多い地域でもあり、今後は外国の方とのコミュニケーションが取れるように準備をしておく必要がある。

②今後の改善方策

- ・検討していく。

③特記事項

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

◇今後の業界の動きについて

近年は技術面で美容業界に大きな変革はなく、これからも流行りの移り変わりなどはあっても大きく変わることはないと言われている。そのような中で、唯一変化があるのは男性の美容とジェンダーレスの部分。また、海外のお客様がどんどん増えていく可能性もある。

これまでと違った施術・配慮が必要になることも考えられるため、どのようなお客様に対しても柔軟に対応でき、高い技術・接客力を発揮できるような力を身につけていく必要がある。サロンワークの授業や、地域の方々と協力し、学校でも実践的な練習ができる環境を設けていく。

◇教育について

近年、「キャリアアップのための転職」という考えも広まっているが、技術職は一年一年の積み重ねが重要なため、同じサロンで2～3年以上は在籍しなければ経験者という目で見てもらえない可能性がある。やむを得ない理由での早期離職があった場合も、短期間での転職が繰り返し行われていた場合は採用で不利になる可能性もあるため、就職活動の段階で自分に合ったサロン選びができるように学校は就職活動のサポートを行う。

また、働いていくうえで、技術はもちろん人間関係も重要なため、学校生活を通して協調性やリーダーシップなどを身につけられるように引き続き工夫をしていく。